【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号					
法人名		和			
事業所名	グループホーム なごみ浜中 厚岸郡浜中町浜中桜北95番地				
所在地					
自己評価作成日	令和3年6月4日	評価結果市町村受理日	令和3年7月9日		

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援によ

62 り、安心して暮らせている

(参考項目:28)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE		
所在地 北海道北見市とん田東町453-3			
訪問調査日 令和3年6月29日(令和2年度分)			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に根ざしたホーム作りを目指しており、地域のお祭りや行事・文化祭・餅つき大会・運動会など小学生行事に参加し 小学生とのコミュニケーション交流も行っております。また、保育所の園児の訪問、ボランティアの慰問やホームの行事 にも地域の方々の参加も頂き、開かれたホーム作りをしております。総合訓練・夜間避難訓練には地域の消防団・駐在 所・近隣の企業の参加協力により実施しております。また、地域の方々・駐在・スーパーの店員・郵便局・小学校等に ホーム利用者を知って頂き(徘徊時)等素早く気付いて頂くようにご協力をお願いしております。利用者には四季を感じていただくよう野菜作りや山菜採り、ドライブや地域の行事・お花見等に出かけております。利用者一人一人の願いや希望・要望に応えるようにしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR浜中駅付近の住宅地に釧路市に本部がある特定非営利法人和により、グループホームなごみ浜中は平成21年1ユニットで開設されています。「あなたの笑顔、応援します」「明るく・楽しく・仲良く」の法人理念のもと、「なじみの環境の中で仲良く助け合い、明るく・楽しく生き甲斐のあるある生活が出来るよう、その人らしさを大切に、安らぎと楽しさに満ちた雰囲気の中で生活が送れるよう、地域とともにある事。そして家族の方々との協力を得ながら安心して暮らしていけるよう支援します。」とのグループホーム理念を策定し、利用者が満足できる生活を目標としています。現在の新型コロナ感染症の影響で行動が制限され家族との面会もガラス越しやリモートで実現する等工夫をしながら行っています。また、地域との関係を大切にし協力を得ながら、事業所としても地域貢献できるように配慮しています。町とは福祉避難所としての協定を結び2階の広いスペースを開放するように計画しています。さらに地域包括支援センターの指導のもと、認知症カフェを開催し、地域の理解と相談が出来る場所としてのグループホームを目指し、離設願望の傾向にある利用者への安全対策として地域の企業や商店、自治会に協力をお願いし地域の中で利用者を支える取り組みを行っています。今後の方針として終末期ケアにも取り組む方向にあり、管理者、職員は利用者が和やかで、安心感を持って穏やかな生活が出来るよう目指しています。

▼. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

2. 利用者の2/3くらいが

3. 利用者の1/3くらいが

4. ほとんどいない

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものにO印		項目	↓該当	取り組みの成果 するものにO印
	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでい	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていること	0	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと
56	る (参考項目:23,24,25)	3. 利用者の1/3くらいの	63	をよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
		O 1. 毎日ある		通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が		1. ほぼ毎日のように
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	2. 数日に1回程度ある 3. たまにある	64		0	2. 数日に1回程度3. たまに
		4. ほとんどない 0 1. ほぼ全ての利用者が		運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつな		4. ほとんどない 1. 大いに増えている
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	2. 利用者の2/3くらいが	65	がりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増え	0	2. 少しずつ増えている
	(参考項目:38)	3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	1	ている (参考項目:4)		3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が みられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が O 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	0	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると 思う	0	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせて いる (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足 していると思う	0	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3/らいが 3. 家族等の1/3/らいが 4. ほとんどできていない
	利田老は その時々の状況や悪望に広じた柔軟な支撑に上	O 1. ほぼ全ての利用者が				-

自己評価及び外部評価結果

自己	外部評価	項目	自己評価	外音	祁評価
計価	部評価	価	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I	. 理#	念に基づく運営			
1		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念 をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実 践につなげている	のホーム作りを目指します。家族・地域に愛されるホーム作りを目指します。認知症になってもその人らしい生活をして頂くよう支援しま	事業所理念を事務所、リビングの目につく場所に掲示しており、毎月の会議では唱和して常に意識のもとに置き実践できるように努めています。また、職員みんなの目標7項目を決め自分を見つめ直す努力に努めています。	
2		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事(桜まつり・神社祭り・敬老会)に参加したり、 親交会の会議に参加している。事業所の行事		
3	$ \cdot $	〇事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活 かしている			
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを 行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	員研修等の報告をし、意見を伺いサービスに	役員、民生委員、行政等の出席を得て行事や 認知症カフェと並行して開催し、意見、質問を 得て運営に活かしています。現在はコロナの	
5		〇市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所 の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝え ながら、協力関係を築くように取り組んでいる		町担当者や地域包括支援センターとは報告事 項提出や認知症カフェ開催で指導、協力を得 ており、日常から協力関係を築いています。	
6		〇身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止宣言を掲げており、身体拘束を しないケアに取り組んでいる。身体拘束委員 会を設け3ケ月に1回委員会を行い、身体拘 束の弊害についてなど職員会議で周知してい る。	身体拘束廃止に向けては指針をもとに管理者、副管理者、担当職員により検討委員会を設置し、3か月ごとに開催して身体拘束がないかを検証しています。結果は職員会議で報告され身体拘束の無い、適切な介護が出来るように周知しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外音	7評価
評価	評価		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		〇虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学 ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待 が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に 努めている	態についての意見を再確認するように努め、		
8		〇権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年 後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性 を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援し ている	現在は必要性は低いが対応できるよう関係機関に相談をしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や 家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い 理解・納得を図っている	契約の締結や改正の際は、利用者・家族が不信を持たないよう十分な説明と納得を得るようにしている。その都度不明な点が出たら、いつでも遠慮せずに問い合わせて頂くよう伝えている。		
10		○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並び に外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反 映させている	利用者・家族から意見や要望を聞き、会議等で報告し改善・運営に反映している。	利用者、家族の意見や要望は日常の会話や面会時に伺うようにしていますが、現在は面会を制限しており家族の面会は少なくなっています。毎月ニュースレターを発行し様子を知らせています。更に遠方の家族にはお便りで報告をしています。要望は職員で共有し反映するように努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提 案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の職員会議や日々の送り時を利用して意見要望を聞き運営に反映させている。	職員の意見や提案は業務の中や毎月の会議 で把握し介護や運営に活かされています。代 表者による個人面談は年数回行われ就労環 境向上や処遇改善を行っています。	
12	/	〇就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務 状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいな ど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条 件の整備に努めている	反映している。各自の可能労働時間を考慮し		
13		〇職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際 とカ量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の 確保や、働きながらトレーニングしていくことを進め ている	返りと再確認できるように努めている。「法人」		
14		〇同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会 を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の 活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り 組みをしている	広域連絡協議会の研修会・勉強会に参加して 交流を図っている。同業者との施設訪問や意 見交換を行いサービスの質の向上を図ってい る。		

自然	外		自己評価	外音	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
自己評価	部 評	項 目			
価(価		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 3	安心	と信頼に向けた関係づくりと支援			
15			サービス利用時に、本人の意見・要望を聞くようにしている。生活歴等のアセスメントを行い、 本人に安心を提供できるように努めている。入 居時に本人の食べたいものを聞いたり、関係 作りに努めている。		
16	$/\ $	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っ ていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、 関係づくりに努めている	利用時に家族より、意見・要望を聞き関係作り に努めている。		
17	$/\ $	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等 が「その時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の要望を聞き入れ、状況に合わせ 社会資源の利用に努めている。		
18	$/ \Big $	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において、人生の先輩として畑つくり や調理を教えて頂く機会を多く持ち、役割や責 任感を感じて頂きながら、楽しみを分かち合え る関係になれるよう過ごしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支え ていく関係を築いている	本人がより良い生活を送って頂くためには、家族との関係が大切で、いつでも面会をして頂けるよう努めるとともに、行事に参加して頂き家族と一緒に楽しんで頂くよう努めている。利用者がいつでも電話が出来るようにしている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所 との関係が途切れないよう、支援に努めている	ないように、友人に会いに行ったり遊びに来て	通いなれた美容室への訪問は家族が対応していましたが現在は中断しています。また、現在知人の訪問もコロナ禍で制限されていますが趣味の編み物や山菜取りを行ってこれまでの馴染みの生活を大切にした取り組みを続けています。	
21	$/ \Big $	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている			
22	/	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係 性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経 過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が退所してもこれまでの関係性を大切 にしながら、必要に応じて本人・家族の経過を フォローし相談や支援に努めている。		

自己	外部		自己評価	外音	7評価
評価	外部評価	項目		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
		 D人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン	•		
23		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に 努めている。困難な場合は、本人本位に検討してい る	利用者の意見・要望に耳を傾け、実行できることは即実行するように努めている。困難な時は家族等に相談し検討する等に努めている。(本人の)願いでもあった孫の結婚式にサプライズで参加するなど本人の思いに努めている。	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望は 利用契約時の生活歴やアセスメント、日々の 業務の中での会話で把握し記録メモで職員間 で共有し実践できるように努めています。	
24		〇これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のアセスメントや家族からの情報を得ながら、今までの馴染みの暮らしぶりの把握に努めている。担当していたケアマネジャーから情報を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力 等の現状の把握に努めている	利用者の日々の生活状況や心身の状態について、職員間の申し送り時にしっかり現状把握を行い、ケアの変更時は即連絡簿で把握できるようにしている。職員は日々変化する利用者に対し、即対応できるように努めている。		
26		〇チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方に ついて、本人、家族、必要な関係者と話し合い、そ れぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した 介護計画を作成している	状況等により必要なサービスを取り入れ、介	しを行っています。担当職員によりカンファレン	
27		〇個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実 践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケース記録に記入し、本人の状 況把握や気づきや変化を職員間で共有し、実 践を介護計画にいかしている。		
28		〇一人ひとりを支えるための事業所の多機能化本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		〇地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握 し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮 らしを楽しむことができるよう支援している			
30		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得 が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きな がら、適切な医療を受けられるように支援している	状況を把握し必要時にホーム・家族・医師のムンテラを行い必要な医療を受けられるよう支援している。また、利用者の状況変化を医師に連	利用者全員が協力医療機関をかかりつけ医にしており現在は週1回往診を受けています。また、週1回訪問看護師により健康管理が行われ適切な医療が受けられるように取り組んでいます。	

自己評価	外部評	項目	自己評価	外音	『評価
評価	評価	% ц	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	$ \ \ $	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や 気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝 えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を 受けられるように支援している	る。職員の情報、利用者の医療等の相談によ		
32		〇入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、 また、できるだけ早期に退院できるように、病院関 係者との情報交換や相談に努めている。又は、そう した場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っ ている	入退院時は、職員が必ず付き添うようにしている。入院時はなるべく面会に行くようにしている。病院のソーシャルワーカーや看護師と情報交換するようにし退院時に対応できるようにしている。		
33		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い 段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で できることを十分に説明しながら方針を共有し、地 域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	との意志を尊重するようにしている。重度化に	契約時に「重度化対応・終末期ケア対応方針」 で説明し理解と同意を得ていますが、ターミナ	
34	/	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員 は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実 践力を身に付けている			
35		〇災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利 用者が避難できる方法を全職員が身につけるととも に、地域との協力体制を築いている	避難訓練は地域・消防団・消防署との協力を 得て総合夜間避難訓練を実施し、体制を整え 災害時に備えている。日中・夜間のフロチャー トを作成し、出勤職員の体制作りをしている。	火災の避難訓練は年2回消防署の指導と、地域の協力を得て夜間想定訓練を行っています。ブラックアウトでの対応や防寒対策等の備品を備えています。また、町と協定を結んでおり地域の避難所となっています。	
	-	の人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36		○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを 損ねない言葉かけや対応をしている		利用者一人ひとりの尊厳や人格を尊重して誇りを傷つけない介護に取り組んでいます。特に職員の言葉遣いには会議で注意を促し確認しており、呼びかけも苗字さん付けを基本として行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	利用者が何がしたいのか、どうしたのかを聞きながら支援している。また、日々の表情や言葉を察知しながら対応している。		
38	1 /	〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人 ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ご したいか、希望にそって支援している			

自己評価	外部	項目	自己評価	外音	『評価
評価			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		〇身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	その人が今までしてきた、おしゃれを支援している。お化粧や行きつけの美容室に連れて行くようにしている。		
40		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	季節に合わせた食事を提供したり、誕生日に 本人の食べたいもの聞いて提供している。	毎日の食事は担当職員が最近の献立と被らないように、好みや希望を考慮して決めています。行事や誕生日には本人の希望のものを用意しています。出前でのお弁当など楽しい食事になるように努めています。	
41		〇栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確 保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた 支援をしている	食事量・水分量を確認している。食事量の少ない方に対し、栄養補助食で補っている。食事の 形態も考慮している。		
42		〇口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人 ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをし ている	毎食後の口腔ケアを支援している。うがい薬を 使用している。		
43		〇排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの 力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの 排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレでの排泄が出来るよう支援している日中・夜間のおむつ・パット等の使い分けをしている。本人の排泄パターンに合わせた排泄誘導に努めている。	一人ひとりの排泄記録で習慣やパターンを把握し状況や状態を見ながら声掛け誘導で介助しています。職員は申し送りや記録メモで情報を共有し誰でも同じように支援できるように取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫 や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り 組んでいる	便秘予防として、食物繊維や牛乳・ヨーグルト 等の乳製品を摂って頂くようにしている。水分 を十分に摂って頂くようにしている。		
45		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽 しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めて しまわずに、個々にそった支援をしている	本人のタイミングで声掛けを行っている。利用 者の状況や気分を考慮している。リラックス出 来るよう入浴剤を使用している。	浴槽には毎日湯を立てており利用者はその日の状況で入浴しており、週3回から4回の入浴を楽しんでいます。リラックスできるため入浴剤の使用をしています。	
46		〇安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援 している	利用者の状況に合わせて、日中に休息をとって頂くようにしている。前日の睡眠状況を確認 し眠りやすいソファーやベットで休んで頂くよう にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法 や用量について理解しており、服薬の支援と症状の 変化の確認に努めている			

自己	外部評価	項目	自己評価	外音	祁評価
計価	評価	λ -	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人 ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽し みごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活に張り合いや潤いをもって頂ける ように外食やドライブ・役割(食事の準備・片付け・畑つくり・山菜の下ごしらえ・調理)の気分 転換している。		
49		〇日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけ られるよう支援に努めている。また、普段は行けな いような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけられるように支援し ている	ける機会を支援している。利用者の希望を取り 入れ家族と相談の上、連れていくようにしてい	以前は外食や買い物で外出していましたが、 新型コロナ感染症の影響で外出支援が難しく なり今は、付近へ木々や花を見に散歩したり、 近隣へ山菜取りに出かけ気分転換を図ってい ます。	
50	/	〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解して おり、一人ひとりの希望やカに応じて、お金を所持 したり使えるように支援している	お金の管理が出来る利用者には、本人に管理 して頂くようにしている。家族と相談し買い物時 には本人にお金を渡して買物して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙の やり取りができるように支援をしている	本人の希望時にはいつでも電話をかけられる ようにしている。(携帯電話を持参している人も いる)手紙の代筆や切手の購入や郵便の支援 をしている。		
52		〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	絵を飾ったり、温度・湿度・空気清浄機を設置 している。季節感を取り入れた装飾をしてい	り、福祉避難所として活用予定となっていま	
53		〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用 者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫 をしている	気の合った利用者同士が過ごせるように、ソ ファーの配置の工夫をしている。本人の好きな 場所で過ごせるようにしている。		
54		〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、 本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し、居室には本人の馴染みの物や 使い慣れたものを持参してもかまわない旨を 伝えている。	居室にはベットやクローゼットが設置され利用 者は箪笥、椅子等の家具を自宅から持参し家 族の写真を飾って居心地よく生活できるように 取り組んでいます。	
55	1 /	〇一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	夜間時、利用者の物音が聞こえるので職員がすぐに対応できるようになっている。2階の利用者が居室から出てきたらモニターとチャイムで知らせるようになっている。夜間の排泄時に見当識にならないように照明に工夫している。		